

(別紙 1)

●EARTH MART のご紹介

「EARTH MART」とは、食といのちの循環に触れ、未来へのヒントと出会う空想のスーパーマーケットです。伝統、文化、社会課題、テクノロジー…食の現在をニュートラルに見つめ直し、食べることの喜びと、私たちが次の時代にいのちをつむいでゆくヒントを探す旅に誘います。



食をはぐくみ、ひとが賑わう、茅葺のパビリオン

■食がいのちであることを見つめ直す「いのちのフロア」

いのちのフロアでは、まるでスーパーマーケットで買い物するような感覚でワクワクしながら、これまで当たり前だと思っていたことをリセットし、新しい食べ方と向き合うさまざまな体験が散りばめられています。



野菜のいのち

花も、実も、葉も、茎も、根も、
野菜が新しい種をつくるためにある。



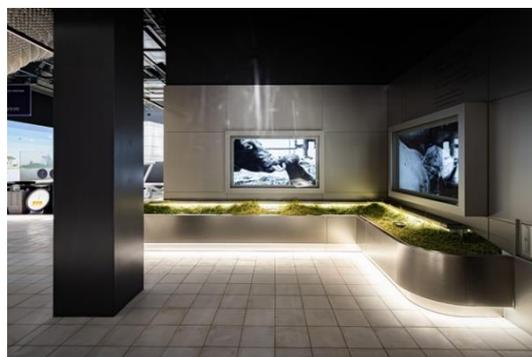
いちばん食べられる魚

地球でいちばん食べられている「イワシ」は地球でいちばん多くのいのちを支えています。「イワシ（鰯）」という字は「弱い魚」と書けれど、実は一番強いいのちかもしれません。



いのちのはかり

食べ物の重さをはかるための「はかり」ではありません。
いのちの重さを感じるための「はかり」です。



家畜といういのち

ひとが食べるために育てるいのち。
つまり、わたしたちが生きてるために生まれてくるいのち。



一生分のたまご

日本人ひとりが一生で食べる卵の数は、約 28,000 個。
その量は世界トップクラスで年間 300 個以上を消費し続けています。



いのちのショーケース

世界の人々がいただく主な食べものと年間消費量（いのちの数/年）他の雑食性動物と比べても人間が食べる食材の数は圧倒的に多く、数万種もあると言われています。ここに並んでいるのは、ほんの一部。私たちは、これだけの種類と数の「いのち」に支えられているのです。



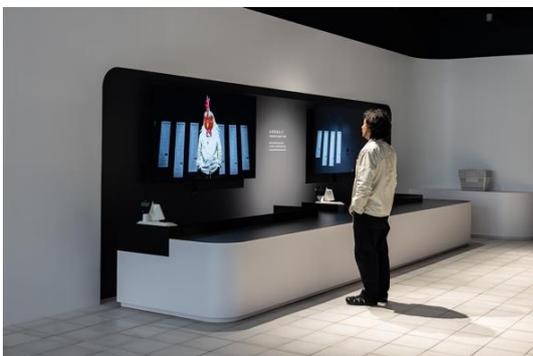
世界の食卓

わたしたちは、世界の人々が何を食べているか、実はあまり知りません。食を知ることが、その人を知る手がかりとなるかもしれません。



いのちのカート

大きないのちのカート。ねぶたでつくられたこのカートには、日本人が食べる約 10 年分の食材が入ります。



いのちのレジ

わたしたちは、わたしたちがいただいた、いのちでできています。



世界のレシート

世界に実在する、一週間分の家族の食糧。
データや数字からでは読み取れない、
本当の人々の暮らしが

■新しい食べ方のヒントに会う「未来のフロア」

未来のフロアでは、日本が育んできた伝統、文化、テクノロジー、さまざまな視点から未来に残したい「食べ方」を散りばめながら、食べることの喜びと、私たちが次の時代に「いのち」をつむいでゆくヒントを探す旅に誘います。



未来を見つめる鮭屋

鮭職人×フードテクノロジー
伝統と革新が融合することで、食の未来が見えてきます。



進化する冷凍食

あらゆる食材を凍結粉砕してパウダー化。
それは食の新たな可能性を広げます。



味を記憶し、再現できるキッチン

世界中で調理過程のデータが共有される未来。
料理の楽しさも、技術も、文化も記憶され、時空を超えてゆく。



みんなが幸せになる未来のお菓子

子どもたちが思い描いた未来のお菓子を集めました。
この中に、みんながもっと幸せになるヒントが見つかるかもしれません。



EARTH FOODS

食の未来をより良くするために
世界に共有したい日本発の食の知恵。



UMEBOSHI ~BANPAKU-ZUKE~ 2025→2050

ここで作る梅干し「万博漬け」。
ただし樽を開けるのは2050年。
いわば「食のタイムカプセル」です。
2025年の思い出を、あなたは誰と共有しますか？